



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

8. 蒜山地域に適したミニダイコン品種「四季姫2号」

[要約]

ミニダイコン品種「四季姫2号」は、蒜山地域では4月下旬以降の播種に適し、高温期の内部障害や萎黄病の発生が少ない。多収を得るには3条栽培が適し、外側2条を収穫し、その4～7日後に中央の1条を収穫すると商品率は高くなる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 情報

[背景・ねらい]

蒜山地域はダイコンの産地であるが、近年は担い手不足や栽培者の高齢化で収穫作業時の労力が不足し、栽培面積は減少している。一方、小規模世帯の増加により、食べきりで取り扱い容易なミニダイコンの需要は増大している。そこで、蒜山地域に適したミニダイコンの品種や栽培法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「四季姫2号」（図1）は蒜山地域では4月下旬以降の播種で抽台はない（データ省略）。
2. 6月播種の夏播き作型における内部障害発生程度は極めて少ない。8月播種の秋播き作型における根汁の糖度は5%以上ある（表1）。
3. 萎黄病の発病株率及び発病度は対象品種に比べ低い（表2）。
4. ミニダイコンは多収を得るには3条栽培が適し（データ省略）、5月播種では播種48日後に一斉収穫すると、出荷規格（500～800g）の商品率は50%程度である。しかし、外側の2条を播種48日後に収穫し、その4～7日後に中央の1条を収穫すると商品率は70%程度と高くなる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 真庭市蒜山の高冷地研究室露地圃場（標高450m）における栽培結果である。
2. 収穫適期は播種時期によって異なる。



[具体的データ]



図1 収穫期の姿（7月播種）
左：ミニダイコン「四季姫2号」
右：ダイコン「冬職人」

表1 夏播き作型（6月播種）における内部障害発生程度及び秋播き作型（8月播種）における根汁の糖度の糖度

ミニダイコン 品種	6月播種 内部障害発生程度			8月播種 根汁の糖度
	す入り ^z	空洞 ^z	褐変 ^y	Brix (%)
四季姫2号	0.0	0.0	0.0	5.4
紅岬	1.3	0.1	0.0	5.7
マコトちゃん	0.2	0.2	0.9	5.4

^z0：無発生、1：微、2：中、3：甚

^y0：無発生、1：やや潤み、2：強い潤み、
3：潤みが甚または一部褐変、4：褐変が甚

表2 萎黄病検定（2018.7.20播種、9.30調査）

ミニダイコン品種	萎黄病	
	発病株率 ^z (%)	発病度 ^y
四季姫2号	0	0
紅岬	27	11
マコトちゃん	21	7

^z発病度評点指数1以上の株数/調査株数×100 (%)

発病度評点指数 0：なし、1：根に褐変有り、
2：地上部に病徴あるが生存、
3：地上部はほぼ枯死又は枯死

^y発病度 = Σ (評点指数) / (3 × 調査株数) × 100

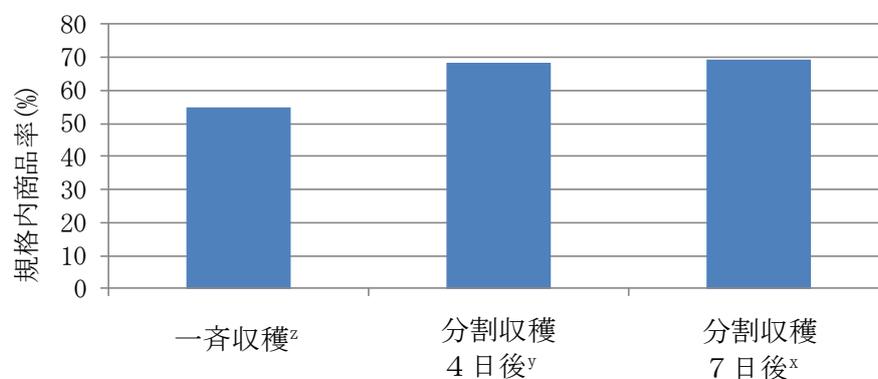


図2 分割収穫した場合の規格^w内商品率

^z一斉収穫：播種48日後に収穫

^y分割収穫4日後：外側条は播種48日後収穫、中央条は播種52日後収穫

^x分割収穫7日後：外側条は播種48日後収穫、中央条は播種55日後収穫

^w500～800g

注) 耕種概要：播種日2018.5.16、畝間140cm、株間24cm、条間23cm、3条植え
(8,929株/10a)

[その他]

研究課題名：準高冷地ダイコンの多様なニーズに対応した品種選定と良品生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2016～2018年度

研究担当者：岡修一

関連情報等：1) [平成 24 年度試験研究主要成果、51-52](#)